

資料活用力を高める社会科学学習指導の在り方
～スキルアップタイムを取り入れた指導実践を通して～

目 次

I	研究主題	5 - 1
II	主題設定の理由	5 - 1
III	研究の仮説	5 - 2
IV	研究の全体構想	5 - 2
V	研究の経過	5 - 3
VI	研究の実際	5 - 3
	1 研究における基本的な考え方	
	(1) 社会科における資料活用力について	5 - 3
	(2) 資料を読み取る力と選択する力について	5 - 3
	(3) 小中一貫した社会科学学習指導について	5 - 4
	2 社会科学学習における児童生徒の実態と研究の方向性	
	(1) 学力調査について	5 - 4
	(2) 意識調査について	5 - 6
	(3) 研究の方向性	5 - 6
	3 資料を読み取り選択する力を系統的・段階的に高める工夫	
	(1) 発達段階に即した系統的・段階的指導内容の整理	5 - 7
	(2) スキルアップタイムの設定	5 - 8
	(3) 資料を正しく読み取り、資料を選択する視点の整理	5 - 11
	(4) ワークシートの開発	5 - 12
	4 資料活用力を高める社会科学学習の授業モデル構築	5 - 13
	5 検証授業の実際	
	(1) 検証授業Ⅰ【第6学年】	5 - 15
	(2) 検証授業Ⅱ【第7学年】	5 - 17
	(3) 検証授業を通じた授業モデルの考察	5 - 18
VII	研究の成果と今後の課題	
	1 研究の成果	5 - 20
	2 今後の課題	5 - 20
	<引用文献>	5 - 21
	<参考文献及び注釈>	5 - 21

研究実践学校 日向市立平岩小中学校
研 究 員 山 之 内 信 忠

I 研究主題

資料活用力を高める社会科学学習指導の在り方
～スキルアップタイムを取り入れた指導実践を通して～

II 主題設定の理由

平成20年1月17日中教審答申（学習指導要領等の改善）では、社会科学学習指導における改善の基本方針として、「児童生徒が社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得し、それらを活用する力や課題を探究する力を身に付けていくために、各学校段階の特質に応じて、習得すべき知識、概念や技能を明確にするとともに、各種の資料を効果的に活用し、社会的事象の意味などを解釈したり、事象の特色や事象間の関連を説明したりするなどの言語活動を重視している」^{*1}とし、言語活動の充実の中に資料の効果的活用を盛り込んでいる。具体的には、各種の資料から読み取ったことを比較したり関連付けたりする学習や、社会的事象の意味や意義を理解し自分の言葉で表現する学習が資料活用力を高める上で重要となる。^{*2}

また、「宮崎の教育創造プラン」における「学び方の取得を図る指導の充実」として、「問題解決的な学習など、思考力や判断力を育てる探究的な学習に対する研修の充実を図り、各学年段階における学び方についての積み上げを確実に行う実践的な研究が必要」であるとし、学習方法を段階的に育てていく必要性や学校間の接続を考慮した一貫性のある指導の重点化が取り上げられている。これはまさに、本研究で目指す発達段階に即した系統的・段階的な指導と軌を一にしている。これからの社会科学学習では、社会科の目標の一部に小・中学校で共通の文言が取り上げられたことを考慮しながら、小・中学校で学習内容や学習方法を関連させることが重要になる。^{*3}

このような状況の中、研究実践学校における社会科の県学力調査を観点別で比較すると、平成18年度と19年度では、全体的に県平均より低い状況にある。この学力調査の問題と正答率を分析してみると、資料を正しく読み取ることや、答えの根拠となる資料を問題に応じて選ぶことを苦手としていることが示されている。

この資料活用力が伸び悩む要因には、様々な資料に応じて内容を正しく読み取る学習が定着していないことや、課題に対する自分の考えは、どの資料を根拠としているかという資料の選択力が不足していることが考えられる。これを裏付ける実態として、児童生徒の意識調査から、学習の進め方に関しては観察や見学は好まれるものの、積極的に資料を活用しながら問題の解決を図るという学習は好まれていないことが分かった。これでは資料を正しく読み取り、自分の考えの根拠として資料を選択する力は高まらないであろう。

資料活用力は、社会科学学習を通して社会的事象を正しく読み取り、自分の考えの根拠として適切な資料を選択して結論を導き出す上で重要な役割を果たす。また、社会生活の様々な事象を多面的に考える場面や、公正に判断する場面が必要な力となる。

そこで、本研究では、資料活用力を高める指導内容を系統的・段階的に設定し、その基盤となる学習の場をスキルアップタイムとして位置づけ、効果的に資料活用力を高めることを目指すこととした。この資料活用力を小学校段階から養うことを目指し、ワークシートを活用した学習指導法を中学校まで一貫して取り入れることで、小・中学校での学習内容や学習方法の関連性が実現し社会科学学習指導の改善につながっていくと考える。

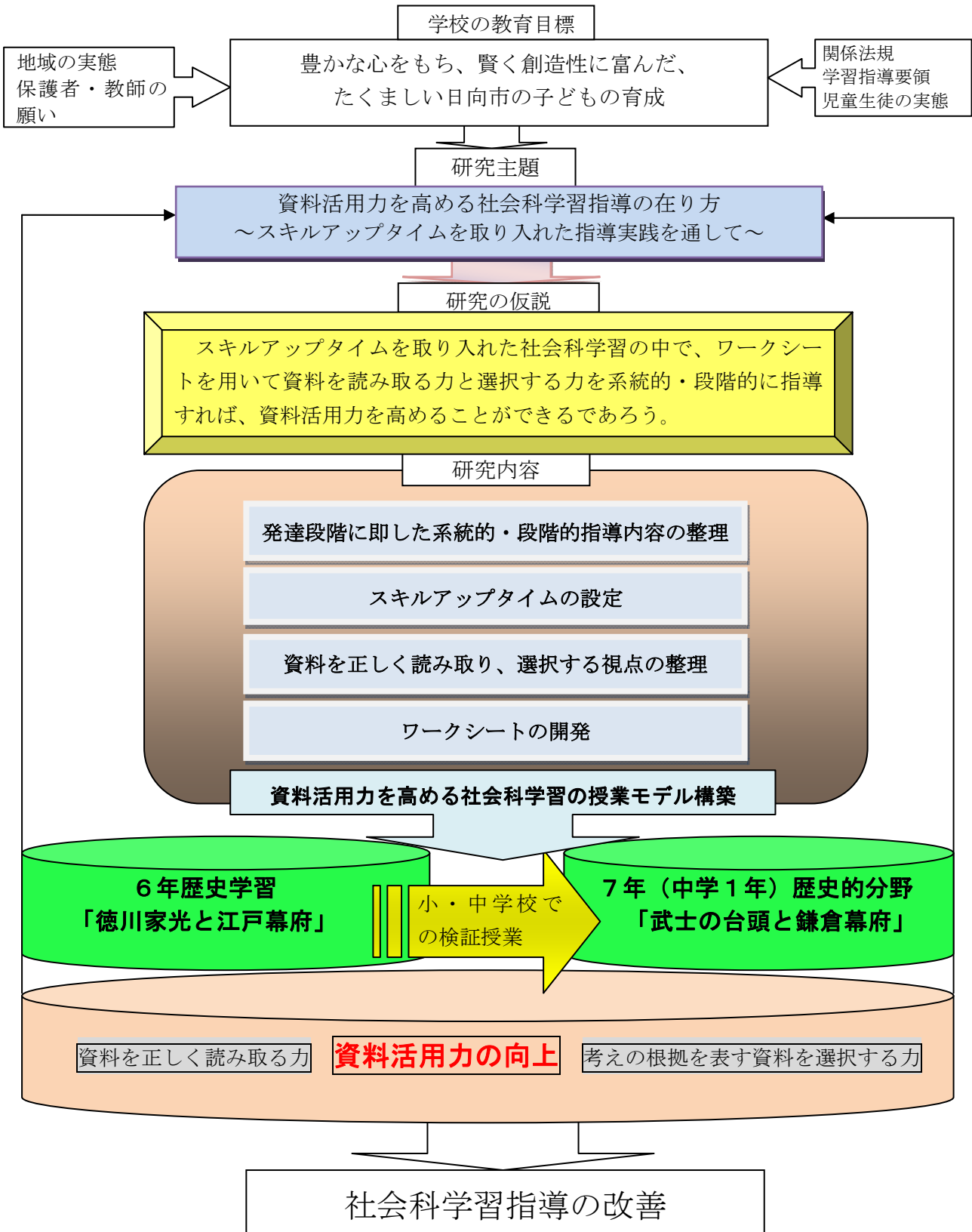
このような学習経験の積み重ねで、児童生徒は資料活用力を高めることが可能となると言える。さらに、資料の読み取りや考えの根拠としての資料の選択という学習活動を系統的に行うことは、公正な判断力の育成にもつながると期待できる。

本研究の成果は、研究実践学校において社会科学学習指導における資料活用力を高めるための一つの視点を与え、さらに、小中一貫した教科学習指導の参考になると考え、本主題を設定した。

Ⅲ 研究の仮説

スキルアップタイムを取り入れた社会科学学習の中で、ワークシートを用いて資料を読み取る力と選択する力を系統的・段階的に指導すれば、資料活用力を高めることができるであろう。

Ⅳ 研究の全体構想



V 研究の経過

月	研究内容	研究事項	研究方法	備考
4	研究計画の作成	先進研究の資料収集	理論研究	
5	理論構築 実態把握 意識調査、学力調査の分析	研究主題・仮説・主題設定の理由等の検討 研究計画書の作成	調査研究 理論研究 調査研究	
6	課題の設定 6年教材の研究	指導案作成、教材・教具準備	授業研究	
7	検証授業Ⅰ 検証授業の考察、課題の整理	検証授業実施 授業考察と次回への課題整理		研究実践学校
8	7年教材の研究	指導案検討、教材・教具準備	理論研究 授業研究	
9	検証授業Ⅱ	検証授業実施		研究実践学校
10	検証授業の考察、課題の整理	授業の考察	理論研究	
11	研究全体の成果と課題の整理	授業後の実態調査・分析		
12	研究のまとめ	成果と課題のまとめ		
1	研究報告書作成	研究報告書作成、修正		
2		発表原稿、プレゼンテーション作成		
3	主題研究報告	研究のまとめの反省		

VI 研究の実際

1 研究における基本的な考え方

(1) 社会科における資料活用力について

ア 資料について

資料には、絵画や年表、地図、歴史地図、統計、文章（文献）、さらに、児童生徒が観察・調査し収集したデータなど様々な種類がある。本研究においては、この見学や調査などで自ら収集したものも含めた広義の資料は研究の範囲には含めず、学習時に入手しやすい既成のものや教師が作成したものである狭義の資料^{*4}を資料として位置づける。

イ 資料活用力について

本研究では、資料活用力について、『社会科教育指導用語辞典』の中で山中氏の言う資料活用力^{*5}を次のように整理した。

- ① 学習問題を分析した上で、解決を引き出すために必要な資料を収集する力（収集する力）
- ② 資料が示す事実およびその背景まで考えながら読み取る力（正しく読み取る力）
- ③ 資料にある社会的事象を総合し、論拠としての資料を選択する力（選択する力）
- ④ 資料を用いて結論を吟味したり概念化したり、新たに応用したりする力（再構成する力）

この資料活用力のうち、本研究では研究実践学校の実態から、「資料を正しく読み取る力」と「資料を選択する力」の2項目について重点化した指導を目指すことにした。

(2) 資料を読み取る力と選択する力について

ア 資料を読み取る力

資料を読み取る際には、その中の社会的事象を正しくとらえることが重要である。例えば、歴史的分野における「律令制下の公民の税負担」の学習について教科書や資料集には表が資料として提示される場合が多い。これらの資料には「租・調・庸」のほかに「雑徭・兵役」など多岐に渡る内容が掲載されている。そこで、「当時の宮崎の農民はどのような税負担を行って

いたか」という発問を行うと、「国府（大宰府）」が九州にあるという位置関係を把握した上で資料を読み取るという視点が必要になる。つまり、資料を正しく読み取るためには、直接的に資料に表れない社会的事象、すなわち資料の背景にある社会的事象間の関係についても既習内容から理解を深めておく必要がある。資料の表面的な理解と解釈だけでなく、空間的・地域的現象としての地理的事象や時間的現象としての歴史的事象などの背景を含めて読み取ることが資料を正しく読み取る力となっていく。^{*6} 資料にある社会的事象を自分の言葉でまとめる活動を通して、資料の示す事実を既習内容と関連付けながら理解できるようになる。

したがって、本研究では資料を正しく読み取る力を、既習内容を踏まえ資料の背景まで考えて読み取っていく力ととらえていくこととした。

イ 資料を選択する力

社会的事象は、とらえる観点によって大きく変化することから、ともすると恣意的な考察や判断に陥る恐れがある。このため、多面的な思考とともに諸資料に基づいて考察することが重要になる。そこで、自分の考えを立証する資料を選択する必要性に迫られることになる。つまり、学習問題に対して考えの根拠となる資料を選ぶことを通して社会的事象を総括して考える力が高まっていくようになる。資料を活用しながら主体的学習を進めるために、資料から読み取った社会的事象を自分の言葉でまとめた後に、学習問題に対する自分の考えの根拠としてふさわしい資料を示す活動は大切な意義をもつ。

そこで本研究では、自分の考えの根拠としてふさわしい資料を明示する力を資料を選択する力としてとらえることとした。

(3) 小中一貫した社会科学学習指導について

新学習指導要領解説には、「小・中学校の一貫性の観点から、社会科が目指す究極のねらいに当たる文言については、小学校、中学校とも『国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う』という共通の文言にした」^{*7} と示されている。これを踏まえ、小学校の学習内容を基礎として中学校で発展的に学習するという系統的で一貫した学習指導として社会科学学習を進める必要がある。具体例としては地図の活用について顕著に見られる。小学校3年生から内容として含まれており、地図の読図や作図などの地理的技能は中学生でも身に付けることを目指すため、系統的・段階的に指導していくことが重要となる。

本研究で位置づける小中一貫教育での社会科学学習指導は、小学校社会科と中学校社会科の内容の関連に留意した上で、特に指導の一貫性をもたせることにより児童生徒の学習効果を高めることができる9年間を見通した教科学習指導であるととらえる。

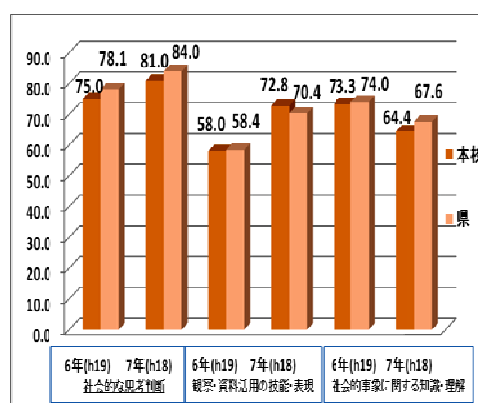
2 社会科学学習における児童生徒の実態と研究の方向性

(1) 学力調査について

ア 県学力テスト

本年度第6学年と第7学年（中学1年生）について、【図1】のように過去の県学力テストの平均到達度を分析した。

その結果、第7学年が第5学年時に「観察・資料活用」領域において県平均を上回っているものの、その他の領域で両方の学年において県平均を下回っていることが明らかになった。さらに、本年度（平成20年度）の第5学年、第8学年について傾向を分



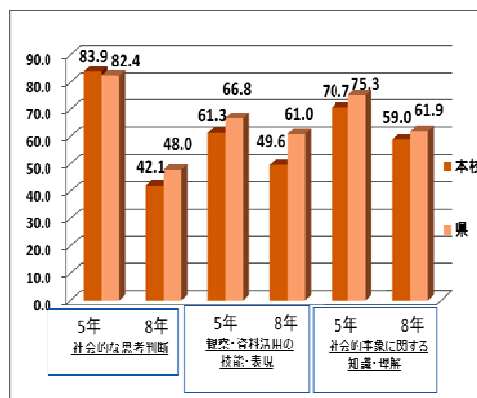
【図1】平成19/18年度 5年生県学力テスト平均到達度

析すると、【図2】のように資料活用に関しては両学年ともに県平均より低い傾向にある。

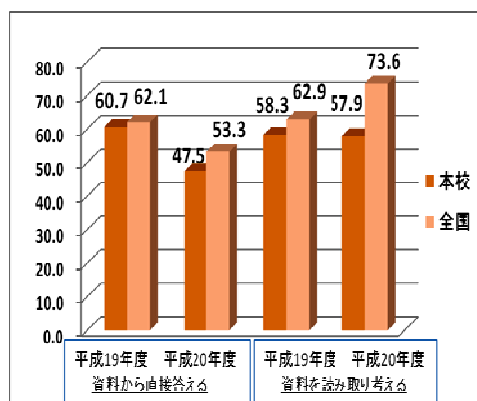
次に、平成20年度の観点別到達度を県平均と比較すると、第5学年に関して、「知識・理解」が4.6ポイント「資料活用」が5.5ポイント下回り、「思考・判断」については1.5ポイント上回っていた。また、第8学年については、「知識・理解」が2.9ポイント、資料活用が11.4ポイント、「思考・判断」が5.9ポイントいずれも下回っていた。問題の内容、系統性の違いを考慮しても、「資料活用」の領域について全体的に低迷していることが分かった。

そこで、実際の問題について分析すると、資料に表されている多くの情報から内容を正しく読み取り、条件に沿ったものを選び出し、資料を活用する部分が低い傾向にあることが分かった。また、資料にかかっている情報について断片的には理解できていても、社会的事象についての内容を自分の言葉でまとめるところにまで高まっていないため、問いに対して的確に答えることができないという傾向が浮き彫りにされた。

すなわち、資料から読み取れる一つ一つの事象に対して、関係性をもたせて理解するような学習が展開される必要があることが明確となった。



【図2 平成20年度 県学力テスト平均到達度】



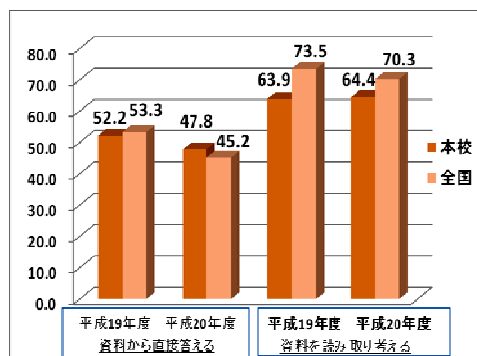
【図3 現6年生 NRT テストの推移】

イ NRTテスト

本年度第6学年について、NRTテストの推移を分析した。特に、資料を見てその中の情報から直接答える問題について、通過率の平均は平成19年度で1.4ポイント、本年度の場合5.8ポイント全国を下回っていた。また、資料を読み、そこから特色や役割などを考える問題では平成19年度が4.6ポイント、本年度の場合15.7ポイント下回っていた。（【図3】参照）

次に、第7学年について同様の分析を行うと、資料から直接答える問題では、平成19年度で1.1ポイント下回っていたが、本年度の場合は、2.6ポイント上回っていた。また、資料を読み取って考える問題では、平成19年度で9.6ポイント、本年度で5.9ポイント下回っていた。（【図4】参照）

以上のように、資料の内容を読み取ったり、条件にふさわしい資料を選択したりする場面での課題が見られる。その一因として、学年が上がるにつれて1単位時間に扱う資料が増え、教科書や資料集といった情報量の多さに対応できていないことが考えられる。また、資料から課題に応じた資料を選択する力を求められるものの、実際には様々な資料に即した資料の読み取りを定着させる学習が行われていなかったことも原因として挙げられる。それは、実際の授業場面において、児童生徒の発言に読み取った資料を根拠とするような発言が少ないことが裏付けている。

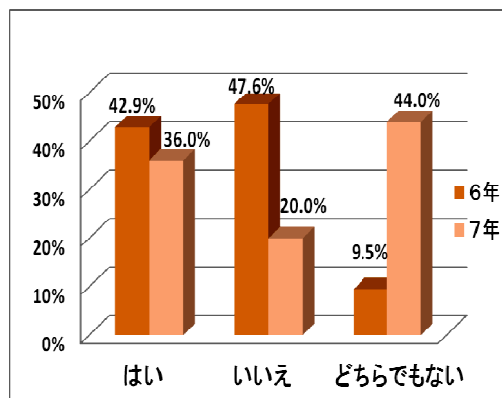


【図4 現7年生 NRT テストの推移】

(2) 意識調査について

資料を読み、考えをまとめることについて、第6学年と第7学年にアンケートを行った。その結果、右のグラフのように、資料を基にして考えを進める学習について面白いと感じている児童生徒は両学年ともに45%以下であることが分かった。（【図5】参照）

すなわち、半数以上の児童生徒が資料を活用して学習問題を解決するような形態を好んでいるとは言えないという結果になった。このことが、資料を正しく読み取る力が高まらないという学力調査の結果にも影響していると見ることができる。



【図5 意識調査「資料を読み考えをまとめるのはおもしろいか」】

(3) 研究の方向性

学力調査と意識調査から、本校においては資料を正しく読み取り、考えの根拠として資料を選択する力が不足していることが課題として挙げられた。このことから、資料を正しく読み取る視点を設け系統的・段階的に指導し、資料の妥当性を確認しながら選択すれば資料活用力は高まるのではないかと考えられる。そのためには、資料活用力を育てる発達段階に即した系統的な指導と段階的な指導を明確にする必要がある。これらの力は一連の学習の流れの中で身に付けていくことになる。そのため具体的な手立てとして、思考の流れに沿って学習を展開できるワークシートを開発し、資料の正しい読み取りと選択を具体的に学ぶスキルアップタイムを設定する。【図6】は、資料を正しく読み取り、選択していく力が高まっていく過程をイメージした。



【図6 資料を正しく読み取り選択していく力が高まっていくイメージ】

1 単位時間の社会科学習における資料活用力の高まりを具体的にイメージしたものが【図7】である。これは、資料の読み取りと選択を関連付けながら高めていくことを表している。

資料活用力を高める工夫についての手立てを取り上げ、それを授業モデルとして提示し、授業実践を通して検証していきたい。



【図7 1 単位時間における資料活用のイメージ】

3 資料を読み取り選択する力を系統的・段階的に高める工夫

(1) 発達段階に即した系統的・段階的指導内容の整理

資料を正しく読み取り、選択するためには、まず、既習内容を踏まえ背景を考えながら資料を読む必要がある。このような力を育てるためには、学年の発達段階に即して系統的・段階的に学習を行うことが重要である。各種の資料に即した読み取りができるようになると、既習内容を関連させながら資料の背景まで考える読み取りができるようになり、社会的事象の特色や社会的事象間の関連をまとめる力が高まるようになる。この段階を経て、様々な問題に対して適切な考えをもつことができるようになると期待できる。そこで、小学校から中学校までの資料活用力に関する指導内容の系統性を明確にするために具体的内容を【表1】のように整理した。系統性が明確になると、児童生徒は到達目標が明確になり、教師も指導の重点化が図りやすくなる。【表1】は、小・中学校の新学習指導要領における資料活用力に関する具体的内容から抽出したものである。^{*8} 中学部における地理的分野^{*9}、歴史的分野^{*10}、および公民的分野^{*11}については『学習指導要領解説社会編』の内容に基づいて作成した。なお、太字・アンダーラインは p9~10【表2 特設スキルアップタイムにおける段階的指導内容の一覧表】に位置づけた内容となる。

【表 1 資料活用力に関する具体的内容の系統表】

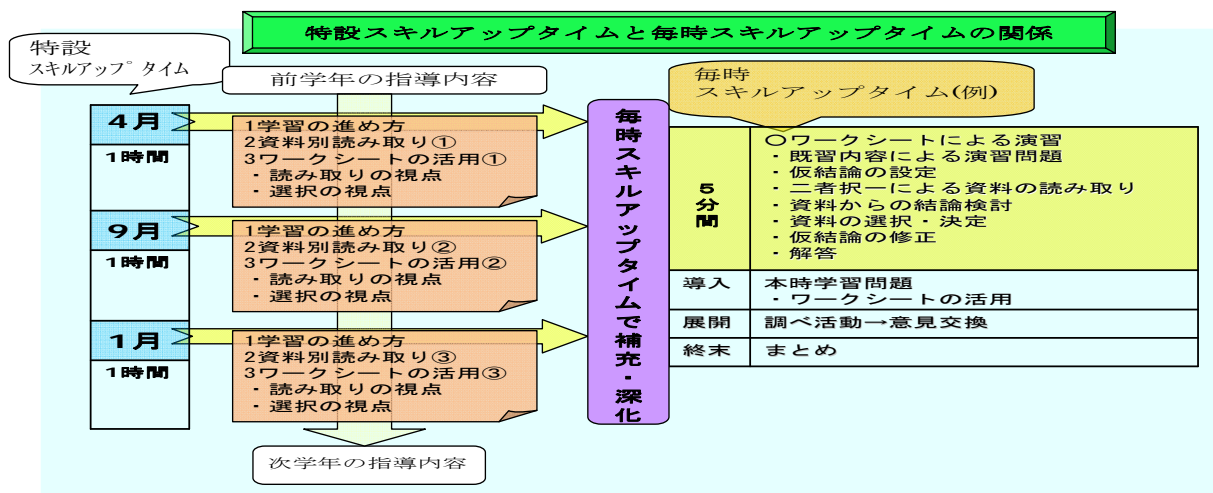
	目標	目標の具体的内容	各種の具体的資料の活用例
3年 4年	地図や各種の 具体的資料を効果的に活用 する。	<u>地域の人々の社会生活の様子</u> をとらえたり、その特色や相互の関連などについて考えたりするために、 <u>地図（絵地図を含む）や各種の具体的資料</u> を効果的に活用する。	①資料から必要な情報を 読み取る 。 ②資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる。 ③必要な資料を収集する。
5年	地図や地球儀、統計などの各種の 基礎的資料を効果的に活用 する。	我が国の国土や産業に関する社会的事象を具体的にとらえたり、その意味について考えたりするために、 <u>地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料</u> を効果的に活用する。	①資料から必要な情報を読み取る。 ②資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる。 ③ 複数の資料を関連付けて読み取る 。 ④ 必要な資料 を収集したり 選択 したりする。 ⑤資料を整理したり再構成したりする。
6年	地図や地球儀、年表などの各種の 基礎的資料を効果的に活用 する。	我が国の歴史と政治及び国際理解に関する社会的事象を具体的にとらえたり、その意味をより広い視野から考えたりするために、 <u>地図帳や地球儀、年表などの各種の基礎的資料</u> を効果的に活用する。	①資料から必要な情報を的確に読み取る。 ②資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる。 ③ 複数の資料を関連付けて読み取る 。 ④資料の特徴に応じて読み取る。 ⑤ 必要な資料 を収集・ 選択 したり、吟味したりする。 ⑥資料を整理したり再構成したりする。
7年	地理的分野	情報技術革新や情報化の進展により、地理情報も多様な情報手段によって 多種多様な資料 を容易に得ることができるが、中には地理的分野の 学習に結び付かない高度な情報や詳細すぎる情報 なども少なくない。また、なかなか適切な情報が入手できない地域もみられる。	①社会的な事象を位置や距離関係を考慮して地図上でとらえる。 ②新旧の地図を比較し関連付ける。 ③地域の変容の軌跡をとらえたり、地域の課題や将来像などについて考える。 ④読図、作図などの地理的技能を身に付ける学習を行う。
	歴史的分野	個々の生徒の学習活動をより活発で主体的なものとするために、歴史学習にかかわる 様々な性格の資料 や、作業的・体験的な活動によって得られた 幅広い資料の中から、必要な資料を選択して有効に活用 することで、歴史的事象を一面的にとらえるのではなく、 様々な角度から考察 し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。	①身近な地域の歴史を調べる。 ②地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解する。 ③受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め歴史の学び方を身に付けさせる。 ④博物館、郷土資料館などの施設の活用や地域の人々の協力も得られるようにする。 ⑤文化を担った人々や外国とのかかわりなどに着目し各時代の文化の特色をとらえて考える。 ⑥歴史の舞台という視点から地理的な事柄とのかかわりで地図を活用する。
9年	公民的分野	情報化が進展する中で社会的事象について考察するとき求められる能力、すなわち、 関連のある資料を様々な情報手段を効果的に活用 して収集し、かつ 考察に必要な情報を合理的な基準で選択 し分析する。	①コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用し必要な情報とそうでない情報を選別する。 ②収集された資料の中から客観性のあるものを取捨選択しながら事実をとらえ、いろいろな立場に立った様々な考え方があることを理解する。 ③結論に至る手続きは公正に行う。

(2) スキルアップタイムの設定

資料の背景まで考えた正しい読み取りや、考えの根拠となる資料の選択力を高めるために、従来の「知識・理解」の向上に重点をおいたスキルアップタイムの内容を見直すことにした。

資料活用力向上に特化した1単位時間の「特設スキルアップタイム」と社会科学学習の時間における

導入時の「毎時スキルアップタイム」がこれにあたる。双方の関連を【図8】に示した。



【図8 特設スキルアップタイムと毎時スキルアップタイムの関係】

ア 特設スキルアップタイム

第3学年から第9学年まで系統的に指導するには、通常の社会科学習の時間の中で細分化して指導するよりも特設した1単位時間の中で資料活用に特化した学習を展開し、それを毎時間の社会科学習の中で補充させるようにした方が効果的であると思われる。そこで毎学期1回、資料活用力向上のための時間として年間指導計画を精選し1単位時間を特設する。学校の実態から授業時間を弾力的に運用することは、新学習指導要領の「実態を考慮し標準時数を上回って指導することが可能」という趣旨にも合致しているが、ここでは指導内容の精選により3単位時間を捻出した形をとる。

毎学期初めの社会科学習の1時間を確保し基本的な指導を行う。それを確実に定着させるために毎時間の導入5分間（毎時スキルアップタイム）で、各種の資料による読み取りと選択の活動を継続的に行うようにする。特設スキルアップタイムでは、【表3】のように、資料の正しい読み取り方や考えの根拠としての資料選択の方法及びそれらを活用した学習の進め方などを学習する。この時間の学習の進め方は、【表4】に示した活動例を児童生徒にも示すようにする。

系統的・段階的な指導内容については【表1 資料活用力に関する具体的内容の系統表】をもとに、新学習指導要領での資料活用に関する指導内容を参考にしながら【表2】のようにまとめた。太字・アンダーラインは【表1】との関連を示している。

【表2 特設スキルアップタイムにおける段階的な指導内容の一覧表】

	4月	9月	1月
3・4年	資料を読み、課題に対する自分の考えを表す過程をワークシートの活用を通して理解する。	ワークシートを活用し、 地域に関する資料を読み取り 、課題に対する自分の考えを表現する。	地域に関する地図などの資料を読み取り 、課題に対する自分の考えをワークシートに自力でまとめていくようにする。
5年	ワークシートを活用しながら、読み取ったことを箇条書きにした上で自分の考えを資料に照らして結論づける過程を理解する。	ワークシートを活用しながら、 地図帳や地球儀、統計などの各種の資料から必要な資料を選択 し、自分の考えをまとめるようにする。	ワークシートを活用しながら、 地図帳や地球儀、統計などの各種の資料から必要な資料を選択 し、読み取ったことを箇条書きにした上で、自分の考えをまとめるようにする。
6年	ワークシートを活用しながら、 地図帳や地球儀、年表などの各種の資料を読み取り 、自分の考えの根拠となる 資料を選択し 、 妥当性の検証 から修正、結論の過程を理解する。	ワークシートを活用しながら、 地図帳や地球儀、年表などの各種の資料を読み取り 、自分の考えの根拠となる 資料を選択し 、 資料の妥当性を再検討 した上で結論づけるようにする。	ワークシートを活用しながら、 地図帳や地球儀、年表などの各種の資料を読み取り 、自分の考えの根拠となる 資料を選択し 、 資料の妥当性を再検討 した上で結論づけるようにする。

7年	ワークシートを活用しながら <u>様々な資料を読み取り、社会的事象を多面的・多角的に考察し、根拠となる資料の選択や妥当性の検証の過程を理解する。</u>	ワークシートを活用しながら <u>様々な資料を読み取り、社会的事象を多面的・多角的に考察し、根拠となる資料を選択したり取捨選択したりしながら妥当性を検証する。</u>	ワークシートを活用しながら <u>幅広い資料を読み取り、社会的事象を多面的・多角的に考察し、根拠となる資料を選択したり取捨選択したりしながら妥当性を検証する。</u>
8年	ノートを活用しながら <u>幅広い資料を読み取り、社会的事象を多面的・多角的に考察し、根拠となる資料を選択したり取捨選択したりしながら妥当性を検証する過程を再確認する。</u>	ノートを活用しながら <u>幅広い資料を読み取り、社会的事象を多面的・多角的に考察し、根拠となる資料を選択したり取捨選択したりしながら妥当性を検証する。</u>	ノートを活用しながら <u>幅広い資料を読み取り、社会的事象を多面的・多角的に考察し、根拠となる資料を選択したり取捨選択したりしながら有効に活用し、妥当性を検証する。</u>
9年	ノートを活用しながら <u>幅広い資料を読み取り、社会的事象を多面的・多角的に考察し、根拠となる資料を選択したり取捨選択したりしながら有効に活用し、妥当性を検証する。</u>	ノートを活用しながら <u>幅広い資料を読み取り、社会的事象を多面的・多角的に考察し、根拠となる資料を合理的な基準で選択したり捨象^{*12}したりしながら効果的に活用し、妥当性を検証する。</u>	ノートを活用しながら <u>幅広い資料を読み取り、社会的事象を多面的・多角的に考察し、根拠となる資料を合理的な基準で選択したり捨象したりしながら効果的に活用し、妥当性を検証する。</u>

【表3 特設スキルアップタイムにおける基本的な活動】

<p>① 資料を活用する系統的・段階的な社会科学学習の進め方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 【表4】を基にした学習の流れの把握 <p>② 毎時スキルアップタイムの進め方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スキルアップタイムシートの配付 ・ 学習問題の提示 ・ 「自分の考え」の仮記述 ・ スキルアップタイムシートにある資料の読み取り ・ 学習問題の解決に必要な資料の選択と内容の概要を理解する演習 ・ 「自分の考え」の修正 ・ 一斉解答 <p>③ 社会科学学習時のワークシートの活用について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会科ワークシートの配付 ・ 毎時スキルアップタイムシートとの相違点 ・ 読み取った資料の内容を簡条書きに書く演習 <p>④ 各種の資料を読み取る視点を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地図や統計、図、写真、新聞などの資料ごとに違う読み取りの視点 <p>⑤ 社会科学学習時の基本的な資料を読み取る視点を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を読み取るにあたって基本的に押さえる共通した視点 <p>⑥ 「自分の考え」の根拠を表す資料を選択する視点について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料選択の視点 <p>* 留意事項：【表4】は、児童生徒にも配付しノートに貼って学習の流れの参考にさせる。社会科ワークシートを基に、グループで意見交換が活発になるような班編成を予め行う。</p>	<p>【表4 社会科学学習の進め方】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">調べ学習から グループ意見交換まで ～社会科学学習の進め方～</p> <ol style="list-style-type: none"> できごとの順番に読み取り、○でかこむ。 特に重要なところに線を引く。 調べたことを、か条書きで整理する。 ☆ 学習問題に対する自分の意見を考えながら書いていく。 調べた事実と照らし合わせて、学習問題に対する考えを決める資料の内容を確認する。 再度、その資料は自分の考えの根拠となるか吟味する。 グループでの意見交換にそなえて、発表するつもりで友達に伝える言葉を考える。 全体での意見交換の仕方 ☆ 友達の意見を聞いて、賛成、反対、疑問点を伝える。 □ ○○さんは△△といましたが、私は・・・だと思います。それは… □ ○○さんと同じように私も・・・と考えます。 ☆ 資料を指でさしながら！ </div>
--	---

イ 毎時スキルアップタイム

特設スキルアップタイムの学習内容を補充するために、毎時間の社会科学学習の中で資料を読み取り、選択する力を高める内容に重点化したワークシート（後述）を活用し、短時間で効果を高められるようにした。この時間の活用の仕方については、従来の知識・理解を中心にしたスキルアップタイムの実践で時間運用については実証済みであるので、活動内容を見直し、運用を図ることで資料活用力を伸ばすようにした。

活動内容については【表5】のように、導入時5

【表5 毎時スキルアップタイムでの活動内容】

<ol style="list-style-type: none"> ① スキルアップタイムシート（ワークシート）にある本日の問題を読む。 ② 問題の答えを暫定的に書く。 ③ シートにある資料を読む。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どんな種類の資料かを判断する。 ・ 資料を読み取る視点を活用して読み取る。 ・ 資料には何が書いてあるか（読めるか）の要点をまとめる。 ④ 考えの根拠となる資料を選択する。 ⑤ 問題に対する自分の考えを書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ または、修正する。 ⑥ 一斉に解答する。
--

分間という短い時間であるため、資料を厳選し、効率よく資料の読み取りと選択ができるように設定することとした。1年間を通じて継続的に実施することで資料を読み取る力を高めていくようにする。

(3) 資料を正しく読み取り、資料を選択する視点の整理

【表6 資料別読み取りの視点】

ア 資料別読み取りの視点

社会科学習において活用される資料には、質的・量的に多くの種類がある。児童生徒は資料別に正しく読み取り、学習問題に対して何が大切で何が必要な情報なのかを判断しなければならない。

そこで、資料のどの部分に目を向けることが大事なのか、ポイントはどこにあるのかを

【表6】^{*13}のように視点を設けて重点的に指導する必要がある。

特に、地図については、中学校社会科での地理的分野はもとより、歴史的分野や公民的分野においても資料としての深い関連があるため正しく読み取る力を十分に高め、系統性に留意して計画的に指導することを重視した。

実際に、児童生徒へ提示する視点については【表7】に「絵画」と「年表」についての第6学年、第7学年対象の例を示した。特に、文化史については【表8】のように、写真や絵画などの数多くの資料があるため、資料からその時代の特徴を読み取るポイントを児童生徒に示すこととした。

イ 文章資料を読み取る視点

【表6】に示した「資料別読み取りの視点」を基本として児童生徒の資料別に読み取る力は高まってくると期待できる。しかし、児童生徒が教科書のような文章資料を読み取る際には、「絵画」や「年表」などを使って読み取るだけでなく、書かれている文章そのものから読み取る場合もある。そのため、資料別に読み取る力に加えて、【表9】のように「政治」や「経済」、「外交関係」などの社会的事象の視点に沿った読み取りが必要となる。

そこで、教科書や副読本、資料集などの文章資料を読み取る際の視点を【表10】のように示すと、視点に沿って多面的に読み取ることができるようになる。

ア 絵画	画面に見られる特徴やその資料がもっている歴史的な背景、作者の歴史的な役割などについて読み取る。
イ 年表	各時代の特色と移り変わり、我が国と世界の動きの関連を把握する。
ウ 歴史地図	自然環境や、交通や産業など各地域の特色に関するデータを含んだ各時代の絵地図、世界と日本のかかわりを示す地図などの中にある情報を読み取る。
エ 統計(新聞・雑誌)	時代を反映しタイムリーな話題を統計的な観点からデータとして読み取る。
オ 地図	(7) 地名は日本や世界のどこにあるか位置を確かめる。 (1) 地域の地理的事象について読み取る。 (ウ) 地図を頼りに訪ね歩く技能を身に付ける。 (エ) 調査結果を地図に表すことができる。 (オ) 略地図を描くことできる。

【表7 資料別読み取りの視点(例)】

1	絵画を読む。人の動き・文化の特色
①	だれが何をしているか。(武士、貴族、僧侶、民衆、個人)
②	何を持っているか。
③	前の時代とどこが違うか。
2	年表を読む。政治・経済・外交関係
①	今どこの学習をしているか。
②	今の学習は何時代か。
③	学習ポイントより過去と未来の流れはどうなっているか。
④	国内と外国の動きはどうなっているか。

【表8 文化史資料読み取りの視点】

①	宗教の動き
・	だれが、どんな宗教を開いたか。
・	その後、日本や外国にどのような影響を与えたか。
・	この時代の政治の特色を反映しているか。
②	建築物・彫刻
・	だれが建てたか、作ったか。
・	前の時代と比べてどんな特色があるか。
・	この時代の政治の特色を反映しているか。
③	文学
・	だれが、どんな作品を作ったか。
・	どんなことが書いてあるか。
・	この時代の政治の特色を反映しているか。
④	絵画
・	だれが、どんな作品を作ったか。
・	どんなことが書いてあるか。
・	この時代の政治の特色を反映しているか。

ウ 資料選択の視点

各種の資料を読み取りながら、自分の考えの根拠を明示することで資料を選択する力が高まると考える。

【表 11】にあるように、資料を読み取りながら、「その資料で本当に分かるか」、「その資料のどこに書いてあるか」、「ほかに資料はないか」、「同じ部分や違う部分は書かれていないか」というような視点で資料を読み取ることで資料の選択力は高まってくるととらえる。

また、学習時の目標となる社会的事象に到達できるように、【表 2】にある取捨選択という進め方が効率的な場合もあるため、特設スキルアップタイムにおいては、学年に応じて捨象して選択する学び方も視野に入れた指導が必要となる。

このように、資料選択の視点によって、資料に書かれている内容を様々な方法で吟味・検討し、その資料の妥当性を評価できるようになる。また、自分の知識や経験と結び付ける読みの力も養われるようになる。^{*14}さらに、児童生徒が結論を導く過程において自問する習慣を定着させることが資料の客観性を高め、引いては公正な判断力の育成へと発展していくものと期待できる。

(4) ワークシートの開発

本研究においては、児童生徒が社会科学学習の中でより効果的に資料を読み取り、選択する力を高められるようにするために思考の流れに沿って学習を展開できるワークシートを開発した。ワークシートには思考の流れが番号で示してあるため、児童生徒にとって主体的な学習が展開しやすくなるように配慮した。【表 12】はスキルアップタイムにおけるワークシート（スキルアップタイムシート）であり、【表 13】は「本時」学習時のワークシート（社会科ワークシート）である。当初、ツールミンモデル^{*15}を生かしたワークシートを活用していたが、改良を加え資料の読み取りと選択の過程が一つのシートで完結するようにした。

スキルアップタイムシートでは、複数の資料を予め貼付し、読み取りと選択に集中できる工夫を行った。また、社会科ワークシートでは、教科書や資料集などを活用し資料を読み取り、内容を箇条書きで整理したり、意見交換の手順を示し効率よく話し合いを進めたりできる工夫も盛り込んだ。どちらのワークシートも、資料の背景まで読み取る視点や根拠として明示する視点はずさないような工夫を教師が行うことで、資料の読み取りと資料を選択する力に焦点化することができた。

【表 9 文章資料を読み取る視点】

調べ方	
昔	未来
<u>世の中の仕組み、きまり</u> (政治) <u>暮らし、仕事</u> (経済、商業、農業) <u>外国との関係</u> (何が起り、どうなったか)	

【表 10 文章資料を読み取る視点 6 年例】

過去はどうだったか (既習事項)	視点 1 どのような政治を行ったか。 ①政治はどのようなしくみをしていったか。 ②つくった法律やきまり。 ③支配関係。	未来はどうなるか (予想・調べ)
	視点 2 世の中の経済はどう発展したか。 ①商業 (商売) はどのようなものが栄えたか。 ②農業ではどのような工夫が見られたか。 ③人々の暮らしぶりはどうだったか。	
	視点 3 外国との関係はどうだったか。 ①いつ、どこで、何があったか。 ②その原因は何か。 ③どういう結果になったか。	

【表 11 資料選択の視点】

<h2 style="margin: 0;">資料の確認</h2> <h3 style="margin: 0;">学習問題の答えを出すために</h3>
<p>1 その資料で本当に分かるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料のどこ？ <p>2 ほかに資料はないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ部分、違う部分は？

【表 12 スキルアップタイムシート】

スキルアップタイム		(A 4)
問題	・資料を読み取る中で、書かれている 社会的事象の背景を総合的に考える問題 を既習内容から作成する。	
①自分の考え	・問題に対する 答えを暫定的に書く。	
④考えの修正	・資料を読み、根拠となる資料選択の過程を経て、最終的に 答えの修正 が必要な場合は修正する。 (最後に)	
②	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">資料 1</div> <ul style="list-style-type: none"> ・短い時間の中では2枚の資料に限定し、集中して考えさせた方が効果が高いため、資料をここに予め貼付しておく。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">資料 2</div>
■最も適切な資料に○印をつける。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;">視点に沿って正しく読み取る。</div>	
③【結論にふさわしい資料と決めた理由】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;">考えを整理し、根拠としてふさわしい資料を決定し、その資料名を記入する。</div>	
【資料】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;">「資料選択の視点」・【表 11】の視点を掲載しておく。</div>	
【理由】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;">資料から読み取った内容を簡潔にまとめる。自分の言葉でまとめることで資料の背景まで読み取る力が伸びる。</div>	

【注】 図中の番号は、児童生徒がワークシートに記述していく順番を表している。

【表 13 社会科ワークシート】

社会科ワークシート		(A 4)
問題	・社会的事象の背景を総合的に考える問題	
①自分の考え	・暫定的な 答えの記入と資料選択後の修正	
④考えの修正		
② 読み取ったことを記述する	<ul style="list-style-type: none"> ・「本時」学習時には、教科書や配付資料、資料集などを活用して資料別読み取りの視点に沿った正しい読み取りを行う。それらの資料を読み取る過程において分かった事実をここに整理する。 ・事実を整理する際には、「本時」学習の内容がきちんと整理され、記録として役立つように箇条書きにしておく。また、意見交換の中で新たに分かった事実を補充できるようにノートとしての機能をもたせる。 	
■最も適切な資料に○印をつける。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;">「資料選択の視点」・【表 11】の視点掲載</div>	
③【結論にふさわしい資料と決めた理由】		
【資料】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;">決定した資料の記入</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px; margin-left: 20px;">読み取った内容の記述</div>	
意見交換の手順	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;">「私の意見は (①or④) です。それは、(③の資料口) に(「理由」)と書いてあり、(①or④)ということが読み取れるからです。」と常に、意見交換時の表現方法を参照できるように掲載しておく。</div>	

4 資料活用力を高める社会科学習の授業モデル構築

1 単位時間の社会科学習の中に、資料活用力の育成に焦点化した 5 分間のスキルアップタイムを位置づけ、資料の読み取りと自分の考えの根拠を表す資料選択の視点を盛り込んだワークシートを活用しながら展開する授業モデルを以下に示した。

学習活動及び学習内容	留意事項	備考
<p>1 毎時スキルアップタイム</p> <p>○ ワークシート配付</p> <p>スキルアップタイム用のワークシートを配付する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の中心内容とは別に、既習内容から出題し複数資料を読み取り、選択する力を高める時間とする。時間は解答も含めて5分間以内とする。 	<ul style="list-style-type: none"> スキルアップタイムシートに資料貼付あり。
<p>2 学習問題を提示する。</p> <p>前時学習からの課題を踏まえた連続した学習活動となるような構成を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本日の学習問題を提示する。資料の正しい読み取りと選択が必要となるような学習問題を設定する。 	
<p>3 予想する。</p> <p>○ 学習問題に対する答えを考えワークシートに記入する。</p> <p>4 学習方法の確認</p> <p>○ 一人調べ→グループ意見交換→全体意見交換</p> <p>一人調べの際に、資料別読み取りの視点【表6】を活用して読み取るようにさせる。</p> <p>5 課題を追究する。</p> <p>○ 個人学習</p> <p>(1) 教科書や配付資料、資料集などを調べる。</p> <p>○ 読み取りの視点を活用しながら多面的に読み取りを進める。【表9】</p> <div data-bbox="220 898 614 1155" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">調べ方</p> <p style="text-align: center;">昔 未来</p> <p style="text-align: center;">世の中の仕組み、きまり (政治)</p> <p style="text-align: center;">暮らし、仕事 (経済、商業、農業)</p> <p style="text-align: center;">外国との関係 (何が起こり、どうなったか)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 読み取った内容を簡条書きにする。 <p>(2) 学習問題に対して資料から読み取れることを記述し、自分の考えの根拠として最もふさわしい資料を選択する。</p> <p>○ ワークシートに読み取った内容の要約を書き考えの根拠として選択した資料を記入する。</p> <p>(3) 学習問題に対する自分の考えの修正が必要な場合は修正する。</p> <p>○ グループ意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートと資料を提示しながら、意見交換を行う。 <p>私の意見は(① or ④)です。それは、(③の資料○○)に(「理由」)と書いてあり、(① or ④)ということが読み取れるからです。</p> <p>○ 全体意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループからの意見を基に、読み取った社会的事象を学習問題に照らしてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題に対する答えを予想する際には、既習事項と関連付けて考えさせるようにする。この段階では、児童生徒の思考を頼りに暫定的に素早く記述するようにさせる。 調べ学習の展開方法を確認し、個人でまとめたことはグループの場で意見交換していくために、ワークシートの流れに沿ってまとめることを確認する。 学習問題に関連する学習範囲をまず教科書で確認し重要な社会的事象を読み取り、ワークシートに簡条書きにしていく。 <div data-bbox="699 831 1233 1021" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○ 資料の読み取りと選択の力を高める重要な活動として位置づける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートの流れに沿って進める。 資料選択の視点に沿って資料を選択する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 文章資料を読み取る視点に沿って順序よく読み取っていくことができるようにする。また、国と地方、あるいは全体と個人というようなとらえ方で資料を読むことで多角的な見方も発展的にできるようにする。 学習問題に沿って読み取った内容を自分の言葉で要約することで資料を正しく読み取り、社会的事象の背景を考える力が高まるようにする。さらに、関連的にとらえる読み取り活動によって幅広い思考力や判断力が培われるようにする。 個人で調べたことをグループの中で発表し、資料の読み取りと選択根拠を中心とした共通理解を図る意見交換を行わせる。 意見交換の際には、自分の考えの根拠として選択した資料の箇所を指し示しながら、考えを友達に伝えるようにする。グループ内での意見としてまとめ上げる過程で、さらに読み取る力と選択する力を高めることができるようにする。 全体の場で意見交換する際は、グループで話し合われた学習問題に迫る意見について確認しながら、多くの児童生徒の意見を全体に反映させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料別読み取りの視点【表6】の活用 配付資料や教科書、資料集など 文章資料を読み取る視点【表9】 資料選択の視点【表11】 意見交換の手順
<p>6 本時学習についてまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題のまとめをする際に、前時学習との関連や今後の展開まで予想しながら本時の位置づけをまとめられるようにする。 	
<p>7 次時への課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を受けて、児童生徒から新たな「問い」が出るような話し合いにさせる。 	

5 検証授業の実際

資料活用力を高める上で一貫した指導法の有効性を検証するために、第6学年と第7学年で授業実践を行った。

(1) 検証授業 I 【 第 6 学年】

ア 単元名「徳川家光と江戸幕府」（全 8 時間）

イ 第 1 時 特設スキルアップタイムの指導過程

学習活動及び学習内容	指導上の留意点（資料活用の手立て）	資 料
1 オリエンテーション ○社会科での学習の進め方について説明を聞く。 2 本時学習のねらい 資料を読み取りながら進める方法を学ぼう。	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の確認をする。 普段の授業で調べたり考えたり発表したりしていることを振り返り学習の焦点化を図る。 	
3 学習課題について話し合う。 ○これまでの社会科学習について考えを話し合う。 4 学習方法の確認 ○社会科学習では、個人→グループ意見交換→全体意見交換で進めることを知る。 ○資料の読み取りと選択についてワークシートを基に調べ方や結論の修正の仕方などを学ぶ。 ・スキルアップタイムシート ・社会科ワークシート ○資料別読み取りの視点を活用しながら、読み取る場合のポイントを確認する。 ○資料の妥当性について、「資料選択の視点」を基に検証する。 ○必要に応じて結論の修正をする。 5 課題を追究する。 ○例題に沿って学習を進める。 ・年表、図表、文章、絵や写真の場合 6 意見交換の方法について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> これまでの社会科学習での資料の調べ方と、資料を読み取る場合に難しい点について話し合わせる。 個人で社会科ワークシートを活用しながら資料を読み取り、グループで意見交換したものを全体意見交換でまとめて行く過程を理解させる。 社会科ワークシートを使い、資料の読み取りか理解させる。 スキルアップタイムシートでの読み取り方、書き込み方、結論への導き方を一つ一つ確認しながら進めていくようにする。 ワークシートを活用しながら、要約の仕方と記述の仕方を学ばせる。要約の際には、読み取ったことを総括して自分の言葉で端的に記述できるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会科学習の進め方表【表 4】 ワークシート 資料別読み取りの視点【表 7】 文章資料を読み取る視点【表 9】 資料選択の視点【表 11】 意見交換の手順

ウ 第 7 時の目標

- 朝鮮通信使に関する資料を調べる活動を通して、鎖国状態の中で日本人が海外の文化の吸収に熱心であったことを考え、海外交流に関する意見交換でワークシートを活用できる。

エ 第 7 時の指導過程

学習活動及び学習内容	指導上の留意点（資料活用の手立て）	資 料
1 「スキルアップタイム」 ○ 歴史的分野の復習	<ul style="list-style-type: none"> 資料の根拠を明確にした発言ができるような既習事項からの 	【表 14】
2 VTRを見て学習との関連性を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 複数資料からの選択 	<ul style="list-style-type: none"> 朝鮮通信 金ヶ浜の映像 白地図 書道交流の浮世絵
3 学習問題を提示する。 【学習問題】 幕府や民衆と朝鮮通信使は鎖国の中でどのような交流をしたのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> 「何をしているのか」「どうやって会話をしたのか」とな漢語についての学習であることへ焦点化を図る。 	
4 予想する。 ・もの知りだった。 ・日本にない物を持っていた。 5 学習方法の確認 ○一人調べ→グループ意見交換→全体意見交換 6 課題を追究する。 ○個人学習 ○グループ意見交換 ○全体意見交換	<ul style="list-style-type: none"> 前時学習での朝鮮通信使の様子から日本人にないものを求めているというような考えの根拠を明確にすることを押さえる。 調べ学習の展開方法を確認し、個人でまとめたことは全体の場で表現していき、発言の補助資料としてきちんと取りかかるとともに発表し、一人一人の考えについてきちんと評価し合って根拠の共通理解を伴った意見交換を行わせる。 全体の場で意見交換する際は、グループの中で出てきた意見 	<ul style="list-style-type: none"> 配付資料 教科書 資料別読み取りの視点【表 7】

- ・医学
- ・画家
- ・音楽
- ・服装
- ・唐子踊り
- ・張子人形
- 唐辛子、サツマイモ

資料選択の視点

を取り上げた幅の広い意見を特に賞賛し一人でも多くの児童の意
うに表現活動の拡充を図るようにさせ
の多さからどれほど日本人が新しい学
問や文化を望んでいたのかを理解させる。

- ・教科書の記述から、ほかに海外に開かれた場所があることも海外との交流に積極的だった面もあることを類推する一助とさせる。

- ・文章資料を読み取る視点【表9】
- ・資料選択の視点【表11】

【表14 スキルアップタイムシート】

オ 検証授業 I の結果及び考察

(ア) 毎時スキルアップタイムについて

資料から歴史的事象の関係をとらえさせる問題を期間を空けて同様の問題で調査した達成率は【表15】のようになった。

資料の読み取りに関しては、資料から読み取った内容の部分が適切に書けているかを、資料の選択に関しては、問題に対する答えに関連する資料を適切に選択できたかを比較した。その結果、資料の読み取りと選択のどちらも9割を超え、資料活用力の向上に特化した短時間の学習が効果を上げていることが読み取れる。毎時スキルアップタイムにおいては、既習資料の提示数を少なくし焦点化することで学習効果が高まることを裏付けている。

newスキルアップタイム 10月22日

6年()番・氏名()

【問題】鎌倉幕府は、どんなことがあってほろんでいったのか。

①【自分の考え】
思わなかった。領地をいってもらえず不満に思い、武士たちがいへず
手からたてても、領地をいってもらえないことも不満に思い、
②【修正】
手からたてても、領地をいってもらえないことも不満に思い、
秦公の關係がくずれて、武士たちが鎌倉幕府をたてた。

② 答えを覚識しながら資料をよみ取り取る。

②

④

④

■最も適切な資料に○印を付ける。 その資料は自分の考えにあっているか、他にはないか!

④【自分の結論にふさわしい資料(番号・記号)と それに決めた理由】
(こう書いてある(読み取れる)から!)

【資料】 ① ④

【理由】 ④番と①番の武士と書いてあるから、思ってももらえず、
④番と秦公の關係がくずれていへずから。

【表15 毎時スキルアップタイム】

(イ) 社会科ワークシートについて

資料の読み取りと選択の力は学習問題にかかわらず高まっているかを検証するために、第1時「徳川家光はどのようにしてキリスト教を取りしまったのだろうか」と、第7時「幕府や人々と朝鮮通信使は鎖国の中でどのような交流をしたのだろうか」でその変容を確認した。ワークシートの中の下部にある資料から「読み取れる理由」の部分と「ふさわしい資料」を記述する部分で、読み取りと選択の達成率を【表16】のように比較した。

達成率	7月	10月
読み取り	26.3%	90.9%
選択	42.1%	95.5%

【表16 社会科ワークシート】

達成率	第1時	第7時
読み取り	26.3%	50.0%
選択	52.6%	100.0%

与えられた資料のみではなく自ら資料を読み取り、選択していくというスキルが育っていない第1時では読み取りの達成率が低かったが、実践授業後は高まった。この変容は、学習を進めていく中で、資料に書かれている事実を読み取り書き出し、総括的に分かることをまとめていく(読み取る)力が形成されている過程であるととらえることができる。特に、「どの資料から分かるか」という資料選択の視点があるために、児童は自分の考えの根拠としてはっきりと提示することを求められ、このような視点の明示が資料の選択力の高まりにつながったと思われる。

(2) 検証授業Ⅱ【第7学年】

ア 単元名「中世の日本～武士の台頭と鎌倉幕府～」(全8時間)

イ 第1時 特設スキルアップタイムの指導過程
～省略～

ウ 第5時の目標

- 鎌倉時代の宗教や文化の特色について資料から調べることができる。

エ 第5時の指導過程

学習活動及び学習内容	指導上の留意点(資料活用の手立て)	資料
1 スキルアップタイム ○ 歴史学習の復習	資料の相補を明確にして選択ができるような既習事項か	・スキルアップタイムシート
2 京都や奈良の観光地図を見て鎌倉時代の文化の特色を考える学習の焦点化を図る。 3 学習問題を提示する。	鎌倉時代の文化遺産が多いことから、その特色を考える学習の焦点化を図る。	・京都奈良観光地図 ・社会科ワークシート【表17】
修学旅行で行く京都や奈良の文化遺産は、鎌倉時代のどんな魅力で現代の私たちをひきつけるのか。		
4 予想する。 ・ 大きさ ・ 仏教のつながり 5 学習方法の確認 ○ 一人調べ(視点の確認)→グループ意見交換→全体意見交換 6 課題を追究する。 ○ 個人10分 ○ グループ7分 ○ 全体8分	文章資料を読み取る視点 文化史資料読み取りの視点 資料選択の視点	・配付資料 ・資料別読み取りの視点【表7】 ・文章資料を読み取る視点【表9】 ・資料選択の視点【表11】 ・プロジェクター
・ 仏教：浄土宗、浄土真宗、日蓮宗、禅宗、時宗 ・ 文学：新古今和歌集、平家物語 ・ 絵画：絵巻物 ・ 建築・彫刻：金剛力士像、東大寺南大門	・ 文化の全体像について理解しながら、鎌倉時代の特色について、武家社会と民衆の文化の融合という結論を導き出すことができるようにする。 ・ 全体の中で意見交換する際は、グループの中で出てきた意見を取り上げた幅の広い意見を賞賛する。	

オ 検証授業Ⅱの結果及び考察

(ア) 毎時スキルアップタイムについて

資料から歴史的事象の関係をとらえさせる問題について期間を空けて同様の問題で調査し、【表18】のような結果を得た。特に第7学年では、第6学年における歴史学習から学習内容が高度化してくるため、歴史的事象の背景にある関係まで読み取れるように学習問題を工夫して設定した。ここでは、国府と宮崎県の関係や中央からの税負担という複雑な思考を要する問題としたため、きちんと歴史的事象の背景をとらえている必要があった。この問題に対して、素早く短時間で資料を読み取り、適切に選択できた生徒が大きく増加したことは資料を読み取る力が高まっているととらえることができる。

この結果から、歴史的分野では、各時代の特徴を表す資料を活用し、具体的な視点で読み取らせるようなスキルアップタイムでの問題を工夫すれば、資料の背景にある社会的事象を読み取り、同時に資料を選択する力として高められる効果を確認できた。

(イ) 社会科ワークシートについて

読み取りと選択の力は学習問題にかかわらず高まっているかを検証するために、第1時「平安時代の後半、武士はなぜ力をつけていったのか」と、第5時「修学旅行で行く京都や奈良の文化遺産は、鎌倉時代のどんな魅力で現代の私たちをひきつけるのか」でその変容を確認した。（【表19】参照）

ワークシート（【表17】）③にある読み取りのまとめ（理由）と選択（ふさわしい資料）を記述する部分で変容を比較した。

第1時と第5時では「問い」の質は違う。しかし、焦点化しにくい第5時のような学習問題に対しても、資料を読み取る力と選択する力を高められたことが数値に表れた。これは、読み取った社会的事象（歴史的事象）を自分の言葉でまとめる部分を設けたことで高まったと考えられる。すなわち、ワークシートを活用した社会科学習を毎時間設定し、社会的事象を資料と関連付けながら自分の言葉でまとめる活動を繰り返したことで、学習内容の背景まで読み取る力が高まったと思われる。

【表17 社会科ワークシート】

new社会科ワークシート 10月9日ワークシート
7年()番・氏名()

【問題】
修学旅行で行く京都や奈良の文化遺産は、鎌倉時代のどんな魅力で現代の私たちをひきつけるのか？

①【自分の考え】
寺が寂かなど歴史の跡
彫刻の素朴で強い感じ（鬼カ）

② 答えを意識しながら調べる「政治・経済・外国関係など」

宗教 ・新しい仏教の教え ・浄土宗～浄土真宗 ・禅宗を伝えられた ・時宗	建築物彫刻 ・運慶が冷鋼が探 ・なご強い彫刻を ・制作 ・素朴で強い感じ ・心をあたえる文化	文学 ・新古今和歌集 ・右大臣（鴨長明） ・琵琶法師 ・平家物語	絵画 ・似絵 ・絵巻物
--	---	--	-------------------

③ その資料は自分の考えにあっているか、他にないか！
④【自分の結論にふさわしい資料（番号・記号）と それに決めた理由】
最も適切な資料に○印を付ける。（こう書いてある（読み取れる）から！）

資料① ② ③ ④ 理由
① 57, 10行目 素朴で強い感じと書いてあり

＜意見交換＞（別）資料を指し示しながら
私の意見は（①or④）です。それは（③の資料口）に（「理由」）と書いてあり、（①or④）ということが読み取れるからです。

【表18 毎時スキルアップタイム】

達成率	9月	11月
読み取り	51.9%	85.2%
選択	40.7%	85.2%

【表19 社会科ワークシート】

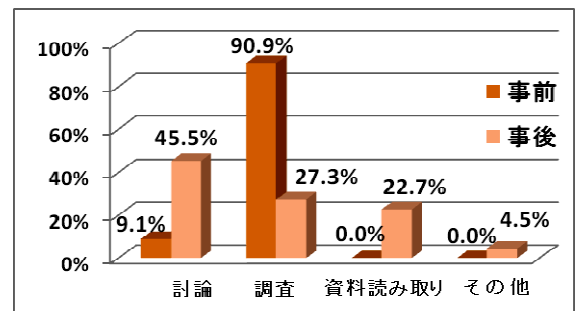
達成率	第1時	第5時
読み取り	40.0%	96.3%
選択	44.0%	70.4%

(3) 検証授業を通じた授業モデルの考察

ア 意識調査より

(ア) 「社会科学習ではどのような進め方が好きか」

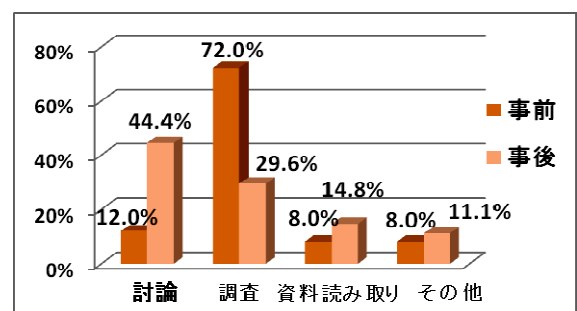
社会科学習の進め方として「調査」が減り、「討論」と「資料読み取り」が増加した。授業前のアンケートでは、「見学」を含めて「調査」を好む傾向があったが、今回の資料活用に特化した学習を授業モデルに沿って展開したことで、資料を読み取り、考えの根拠を示しながら資料の妥当性を検証する学習の面白さを実感した結果であると思われる。（【図9】【図10】参照）この数値が、学習中、資料を指し示しながら活発に意見交換する姿を裏付けている。



【図9】 6年 好きな進め方

(イ) 「毎時スキルアップタイムで資料をよく読み取れるようになったか」

「よく読み取れるようになった」と答えた児童生徒は、第6学年 63.6%、第7学年 88.9



【図10】 7年 好きな進め方

%であった。児童生徒がスキルアップタイムの効果を体感しているのとらえることができる。授業モデルに示した5分間の毎時スキルアップタイムにおいて資料の正しい読み取りができるようにワークシートを工夫してきたことが結果に表れているのではないと思われる。ただし、第6学年については、短時間で効率よく資料活用に関する学習を進めることに対して達成感を味わうような組立てが必要である。

(ウ) 「ワークシートがあると学習を進めやすいか」

「進めやすい」と答えたのは、第6学年 81.8%、第7学年 77.8%であった。ワークシートが児童生徒の思考の流れに沿って学習が展開でき、授業モデルの学習の流れと同様になるように開発したことが児童生徒の主体的な学習を促したと考えられる。

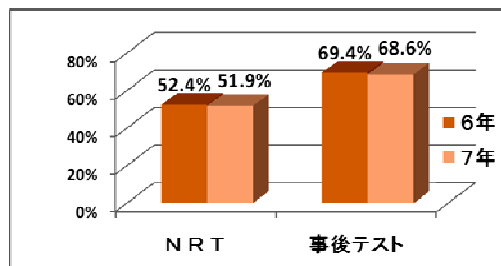
両学年ともに約8割の児童生徒が効果を認めている一方、第7学年のほうが数値は小さい。生徒のワークシートの記述を見ると、読み取ったことを書くための中央のスペースに収められないたくさんの記述をしているワークシートがあった。読み取る力が高まるにつれてワークシートのスペースやノートの活用についても検討する必要がある。

イ 学力調査より

第6学年と第7学年ともに、NRTテストと検証授業終了後に実施したテストの資料活用に関する領域を比較した。両テストとも、テストの平均到達度で変容を比べた。また、習熟度レベルに応じた到達度を比較するために、A層からD層の4段階に分けた分析も行った。これは、最高点（到達度）と最低点（到達度）の範囲を点数により4分割し、その得点のどの層に位置するかを示したものである。

(ア) 資料活用に関する調査（平均到達度）

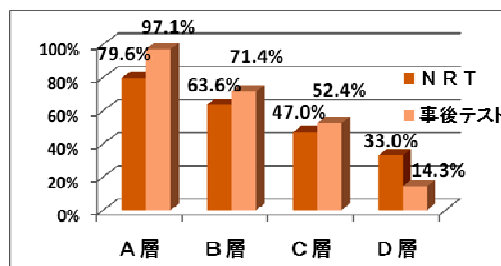
資料活用に関して問題を抜粋したNRTテストと作成した事後テストにおいて検証授業前後の変容を比較した。どちらの学年も事後テストにおいて約20ポイントの向上が見られた。事後テストの方が、資料から考えることを重視した内容構成を多く取り入れていたにもかかわらず、細かく読み取り既習内容を振り返りながら歴史事象の背景にある関係をとらえて解答できた。（【図11】参照）



【図11 学力調査 平均到達度】

(イ) 資料活用に関する調査（第6学年階層別平均到達度）

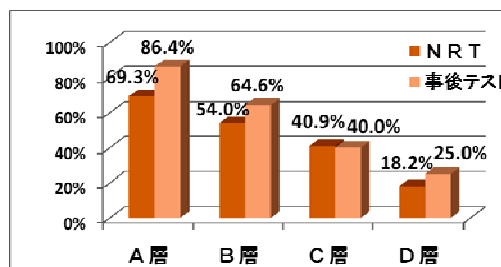
全体的に事後テストの方が到達度が向上した。D層においては到達度が下がっているが、これは、NRTの時点で4名いたD層児童の3名がC層へ転じ、D層が1名となった数値である。この児童のように特に支援を要する児童への手立てが今後の課題となる。（【図12】参照）



【図12 6年学力調査 階層別平均到達度】

(ウ) 資料活用に関する調査（第7学年階層別平均到達度）

C層においては大きな変化はないが、その他の層においては確実に資料活用力が向上していることが分かる。（【図13】参照）このことから、検証した



【図13 7年学力調査 階層別平均到達度】

ワークシートとそれを活用する力を高めた特設・毎時スキルアップタイムによって資料の正しい読み取りと選択の力が、どの階層の児童生徒にも効果を上げていることが伺える。

VII 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 資料活用力の育成に関する学年の指導内容を指導計画で明らかにしたことで、各学年の系統性や段階的な指導内容の焦点化が図られ、児童生徒の到達目標を明確にできた。
- (2) 特設スキルアップタイムによって、資料の正しい読み取りと選択を中心とした社会科学習の進め方を児童生徒が理解することができ、資料別に読み取ったり、選択した資料の妥当性を確認したりする際にはどのような視点をもてばよいのかを理解することができた。
この特設スキルアップタイムを受け、毎時間の社会科学習時の導入時における毎時スキルアップタイムによって、さらに資料を正しく読み取る力や資料を選択する力を高めることができた。
- (3) ワークシートを活用したことで、社会科学習における「読み取り・選択・結論」という資料を活用した学習過程の流れができあがった。また、ワークシートに沿った学習を展開することで、資料を読み取った内容を自分の言葉でまとめたり、考えの根拠としての資料を選択したりする力が高まった。このように、資料を読み取り選択する力を高めることに特化したワークシートを社会科学習時に活用することで、児童生徒は資料を正しく読み取る視点を意識し、根拠とする資料を選択する視点を考えながら問題を解決していくことができた。
- (4) 資料活用に特化した社会科学習の授業モデルを作成したことで、資料の読み取りと選択のための毎時スキルアップタイムをどこに設定しどのように活用するか、また、本時学習の展開においては、ワークシートをどのように活用させるかが明確になった。このことで、授業者にとって資料を活用した主体的な社会科学習をどのように展開していけばよいかの指針ができ、社会科授業の改善策として一つの方向性を示すことができた。

2 今後の課題

- (1) 資料を読み取る力と選択する力をさらに高めるためには、特設スキルアップタイムにおける指導内容をさらに厳選し、効率的にワークシートの活用、読み取りの視点及び資料確認の視点について児童生徒が理解できるように学習活動の構成を工夫する必要がある。
- (2) 本研究において、特設スキルアップタイムを補充する形での毎時スキルアップタイムの重要性が明確になったため、教科書を中心にした毎時スキルアップタイムにおける1年間の指導内容を精選すると同時に、1単位時間における5分間の運用について様々な観点から検証していく必要がある。
- (3) 本研究では、資料活用力を高めるために資料の読み取りと資料の選択に焦点化した。さらに、資料活用力を高めるためには、グループ学習における読み取り過程と選択過程の検証を行う話し合い活動のもち方も工夫する必要がある。そして、グループ活動後の全員での意見交換時に読み取った内容と根拠としての資料をどのような表現方法を用いて提示するか、高め合いの方法について明確にする必要がある。

—— 引用文献 ——

- *1 『小学校学習指導要領解説社会編』文科省、平成20年8月 p3
- *7 『中学校学習指導要領解説社会編』文科省、平成20年9月 p8

—— 参考文献及び注釈 ——

- *2 中央教育審議会答申平成20年1月17日文科省
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/news/20080117.pdf
- *3 『中学校学習指導要領解説社会編』文科省、平成20年9月 p123
- *4 『情報活用能力を育てる学習』明治図書1990年3月 p12 (小関洋治) 本著においては、「教材としての『資料』から必要な情報を選択」するように、「基礎となる材料」を資料ととらえている。この点については、児童生徒自らが自分の考えの根拠として必要な資料を選択していくという意味では、小関氏の言う「情報」と同様の活用をすることができる。
- *5 『社会科教育指導用語辞典』教育出版1986年 p79 山中升 これは山中氏が、これまでの社会科教育の中で資料活用能力の要素として①資料収集②取捨選択③分析・読解④事実の意味付け⑤比較関連付け⑥資料吟味⑦再構成・表現の7つに分類されてきたものを焦点化して5つに整理したものから作成した。
- *6 『資料の収集・活用と授業』教育出版1983年11月 p8 佐島群巳、次山信男、羽豆成二
羽豆氏は資料を正しく読み取ることに對して、「資料活用にとって最も大切なことである。特に、統計資料の読み取りでは、数字そのものを読むというよりも、数字の背後にある意味を読み取ったり、変化の実態や全体的な傾向などを読み取ったりすることが大切である。」とし、統計資料での背景の重要性を指摘しているが、資料の読み取り全般において地理的背景や歴史的背景、政治的背景などを考慮することは大切である。
- *8 前掲1、p20、50、72
- *9 前掲3、p25
- *10 前掲3、p69
- *11 前掲3、p95
- *12 前掲3、p59 地理的分野における「身近な地域の調査」に關連して「どのような事象に着目し何を捨象するか、取捨選択して残った事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでどのようにとらえるか、すなわち、地理的事象としてどう見いだすかといった能力が問われることになる」とあり unnecessaryなものを取り除いて最終的に残していくような学び方の重要性を説いている。
- *13 前掲4、p12 本著に登場する資料の分類の説明を要約・整理して、児童生徒の実態に即した形に修正した。
- *14 『社会科授業力向上5つの戦略』東洋館出版2006年11月、p128 安野功 この中で氏は、多様なテキストを理解・評価しながら読む力を高めることの重要性を強調している。様々な視点からまとめられた教科書等の文章資料(テキスト)であるため、視点を提示することによって読み取りの精度が高まり、資料を正しく読み取る力は高まるといえることができる。
- *15 「社会科教育実践で育成すべき学力としての社会形成」池野範男『社会科教育実践学の構築』明治図書2004年3月 p56~58、溝上泰 トゥールミン図式と呼ばれる『議論の構造』をとる。この構造は4つの部分から成り立っている。①議論の基礎となるデータ(D)と主張(C)を確定すること、②データと主張を関連付けること、③データと主張の関連を根拠や論拠(W)に基づいて関連付けること、④このデータZ(D)と主張(C)と根拠や論拠の関連をさらに裏付け(B)によって正当化することである。

